

相談窓口

● 地域包括支援センター

高齢者が住み慣れた地域で健やかに生活していけるよう、高齢者の総合相談窓口として設置しています。専門的な知識を有する職員が、高齢者の心身や生活の状況などをお伺いし、その方に合った地域での生活を支援します。

名称	住所	電話番号
久御山町地域包括支援センター	島田ミスノ11番地 久御山町地域福祉センター 2階	075-631-0033

● 居宅介護支援事業所

介護支援専門員（ケアマネジャー）は、要介護者などからの相談に応じ、その希望や心身の状況から適切な居宅又は施設のサービスが利用できるように町、居宅介護サービス事業者、介護保険施設などとの連絡調整を行います。町内のケアマネジャーは、上記の事業所などにいますので、お気軽にご相談ください。

名称	住所	電話番号
(福) 久御山町社会福祉協議会	島田ミスノ11番地 久御山町地域福祉センター	075-631-0100
(福) 八康会 居宅介護支援事業所 東楽生苑	林北畑105番地 久御山団地17棟103号	0774-41-1470
(医) 啓信会 ケアプランセンター リエゾン久御山 ひしの里	佐古内屋敷81番地1	0774-43-3970

● 京都府認知症コールセンター

認知症について、日頃から悩んでいること、疑問に思っていることを相談員（看護師及び認知症介護経験者等）にご相談ください。

名称	電話番号
京都府認知症コールセンター	0120-294-677 受付時間：月曜日～金曜日 午前10時～午後3時
京都府若年性認知症コールセンター	0120-134-807 受付時間：月曜日～金曜日 午前10時～午後3時

医療

● かかりつけ医

認知症に関する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人や家族を支援することができる医師。もの忘れなど気になり始めたら、まずは身近なかかりつけ医に相談しましょう。

● 認知症疾患医療センター

認知症疾患の保健医療推進の向上を図ることを目的とする専門医療機関です。関係機関と連携を図りながら、認知症の鑑別診断や専門医療相談などを行います。

名称	住所	電話番号
京都府立洛南病院	宇治市五ヶ庄広岡谷2	0774-32-5960
(医) 栄仁会 宇治おうばく病院	宇治市五ヶ庄三番割32-1	0774-32-8226

平成30年8月発行

～認知症の人と家族を地域で見守り支える～

認知症ケアパス

認知症ケアパスとは、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、認知症の進行や状態に合わせて受けることができる『医療・介護・福祉サービス等』を示したものです。

認知症は、早く気づいて受診することや、状態に応じた適切な対応をすることで、その人らしい生活を維持することができます。

趣味や好きなことに興味を示さなくなった。



買い物で必要なものを必要な量だけを買うことができない。



何度も同じことを話したり、聞いたりする。



大切なものをどこに保管したか思い出せない。



一つでも該当すると思われる場合は、認知機能が衰え始めているサインかもしれません。
主治医や地域包括支援センターに相談しましょう。

認知症になっても、まわりのサポートによって穏やかに過ごすことができます。
家族だけで抱え込まないよう、福祉サービスや地域のつながりを上手に活用し、
認知症の人とその家族を地域全体で見守り支えましょう。

久御山町



	元気な時期～認知症予備軍	発症期	症状多発期	身体症状複合期	終末期		
生活	自立して生活ができる	見守りなどが必要となってくる	状況によって介助が必要となる	常時介護が必要となる	介護なしでは日常生活を送る事ができなくなる		
本人の様子	●会話の中で「あれ」「それ」などの代名詞がよく出てくる。 ●物忘れが見られ、人の名前や物の名前が思い出せないことがしばしば見られる。	●買い物で必要なものを必要なだけ買うことができない。 ●夕食の段取り、家計の管理などに支障を来たす。 ●同じことを何度も話したり、聞いたりする。	●季節にあった服を選ぶことができなくなる。 ●服を着る順番がわからなくなる。 ●外出先から一人で戻れなくなる事がある。	●歩行が不安定になり、転倒なども増えてくる。 ●食べ物でないものも口に入れる。 ●食事や入浴など一人でできず介助が必要になる。	●言葉によるコミュニケーションが難しくなる。 ●表情が乏しくなり、刺激に対する反応が鈍くなる。 ●歩くことが困難となり、ほぼ寝たきりの状態となる。		
記憶		●大事な物を何処に保管したか思い出せない。	●いつ、どこで、何をしたか忘れる。	●家族を認識できなくなってくる。			
場所・日時		●時間や場所がわからなくなることが増えてくる。	●季節・年次がわからなくなる。	●近所で道に迷う。	●トイレの場所が分からず失敗することが増えてくる。		
対応のポイント	家事などを続け、手先や頭を使う。 閉じこもりにならないように、趣味をもつなど、日常生活を活発に過ごす。	<p>大事なことや出来事はメモしておく。</p> <p>ゆっくり、短い言葉で一つずつ伝える。</p> <p>時間の見当がつく工夫をする。（季節感のあるカレンダー・デジタル時計・朝昼晩のあいさつ）</p> <p>自分でできることもたくさん残っているので、趣味や仕事で養ってきた得意分野を生かすことで昔の記憶がよみがえり、心の安定につながる。</p> <p>道に迷わないよう、外出の際は目印を決める。</p>	<p>その場で納得（理論上での説得は難しい。）するように対話する。一緒に行動するなど本人の気持ちを受けとめると、そのうち忘れて気持ちが変わることもある。</p> <p>自然の風や光にふれるようにする。思い出の風景を見るだけでも昔の記憶がよみがえり、安心につながる。</p> <p>昔の思い出にふれたり、懐かしい歌を楽しむことにより、その時の気持ちがよみがえり不安が軽減する。</p>	<p>身体管理を十分に行う。自分で訴えることが難しいので、水分や食事・排泄などの状況を観察する。落ち着いた様子が身体状況からきていることもある。</p> <p>言葉以外のサインを大切にする。表情やしぐさなどから気持ちを読み取る。背中をさするなど身体に触れることで安心感を与える。</p>			
ご家族や身近な方へ	<p>■「おかしい」「いつもと違う」と思ったときには早めに「地域包括支援センター」に相談をする。</p> <p>■今後のことも考えてかかりつけ医を持つようにする。</p>	<p>■介護・医療について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接し方や介護、医療について勉強しておく ・本人の役割を全て奪わず、出来ることはしてもらう。 ・本人が失敗しない環境づくりを配慮する。 <p>■近い親戚や本人の親しい人には病気のことを伝えておきましょう。</p>	<p>■介護する家族の休息も大切に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全て抱え込まずに上手に介護保険サービスを活用する。 ・家族の会などで話を聞いたり、自分の気持ちを話せる場所を作る。 <p>■家族間で話し合っておくべき点（可能であればご本人も交えて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の金銭管理や財産管理について ・どのような終末期を迎えるか 				
医療	① かかりつけ医		② 専門医のいる診療所		③ 認知症疾患医療センター		
相談	④ 地域包括支援センター						
			⑤ 居宅介護支援事業所		⑥ 小規模多機能型居宅介護		
支援体制	⑦ いきいきすこやか塾	⑨ いきいきスマイル塾		⑩ デイサービス		⑪ デイケア	⑫ ショートステイ
	⑧ いきいきハツラツ塾						
	⑬ 民生委員訪問	⑭ ミニデイサービス	⑮ 訪問介護		⑯ 訪問看護		
	⑰ 認知症サポーター養成講座	⑱ 認知症カフェ					
	⑲ サービス付き高齢者住宅		⑳ ケアハウス	㉑ 有料老人ホーム	㉒ 有料老人ホーム	㉓ グループホーム	㉔ 特別養護老人ホーム
⑳ 福祉サービス利用援助事業			㉕ 成年後見制度				